



# 東京の会通信

No.314

2024年5月1日号  
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する  
東京の会  
〒101-0031 東京都千代田区  
東神田1-3-4 KTビル3階  
TEL：03-3866-8171  
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>  
[e-mail.marrow\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:e-mail.marrow_tokyo@yahoo.co.jp)  
定価 100円

## 災害復興支援イベント

### 防災フェアにて献血・骨髄ドナー登録会開催！



3月10日、新宿中央公園水の広場で「第13回防災フェア&チャリティイベント」が開催されました。このイベントは東日本大震災を契機として、災害復興支援と防災意識の啓発を目的に、地元角三町会とライ

オンズクラブが中心となり、毎年3月11日前後の日曜日に行なわれています。

東京新都心ライオンズクラブの元会長で、全国協議会の現副会長でもある渋谷俊徳さんのご尽力により毎年イベント会場で献血並行登録会が行われています。今年はブースもたくさん出店され、お昼近くには多くの来場客でにぎわいました。

会場で骨髄バンクの普及啓発活動を行うとともに、全国協議会がブースを出して、子供用のお面と、東京の会会員の桑田さんの旦那様が経営するお店のパンを販売しました。



献血並行登録会は献血バスが2台出て、東京の会から4名、埼玉の会から3名の説明員の体制で行いました。結果は、献血73名、ドナー登録10名でした。ライオンズクラブでは献血とドナー登録を事前に呼びかけていますが、毎年の開催で既登録者が多くなっていることもあり、ドナー登録者数は伸び悩みが見られ、継続する意義と登録者増の両

立に課題を残しました。(二見茂男)

#### 防災フェアに参加して

当日はよく晴れた日でしたが、朝には厳しい寒さを感じました。そんな寒空の下に朝から来る方は多くなく、客よりスタッフの方が多様な状態が続きました。しかし昼に近づき日の暖かさを感じるようになった頃、来場者数が一気に増えました。物販テントは明るい声で満ち、献血バスにも多くの人が訪れました。

ところがドナー登録はなかなか増えません。多くの人がフェアの常連で既登録だったからです。私は既登録が多いことを素直に嬉しく思う一方、登録者が増えないことを焦れつつも感じました。

そこで、やることも無くなったのでパンフレットを来場者に配ってみることにしました。若い親子や夫婦、友達同士など、様々な人が様々な反応で受け取ってくれました。5歳くらいの子にも「いつか思い出してくれれば」と思って渡しました。そんな中で「たくさんの既登録が生まれるまでには、たくさんの種蒔きの時間があったんだな」という当たり前のことに気がきました。現在に至るまでには、関心の低さや無理解といった厳しく冷たい冬の時代を乗り越えて歩んできた先輩の努力や熱い思いがあったはずです。私も、今の春のような暖かく恵まれた環境に甘えるのではなく、歩みを強く進めていかなければならないと感じました。

蒔いた種がいつか芽吹くことを願いつつ、来年もこのフェアに参加したいと思います。貴重な経験をありがとうございました。(中根悠貴)



# 大田区内の献血会場で高校生が広報ボランティア

地区普及広報委員 園山千夏

大田区内の献血会場にて、広報ボランティアのコーディネートをしています。高校生他学生さんとそのご家族からボランティアを募集しており、献血や骨髄提供における若年層対策の一助となるよう励んでいます。

そもそもは説明員として参加した都内登録会で、東京都学生献血推進連盟の方々が「コロナ禍でもできるボランティア」として活動していることを知り、息子が通っている大田区内の高校PTAで同じことができるはず、と企画提案したのがきっかけです。

総合高校で福祉科目があり、福祉部もあるので医療福祉系への興味関心が高い生徒さんが多いこと、私がPTA役員で息子の担任が福祉専科の福祉部顧問、というご縁も後押しとなりました。また、高校生ボランティア初回が大田区出張所での活動だったため、大田区公式webページでの告知もあり、1年経った頃には活動紹介が掲載されました(※)。

皆さまのおかげで、2024年3月までの活動実績は、実施回数11回(うち骨髄バンク登録会併行8回)、ボランティア参加者数のべ54名(うち高校生他学生32名ご家族22名)と順調です。

更に2024年1月以降、「大根ちゃま&ちゃっぱくん」に出演いただき、広報の効果は抜群、患者さんへの思いとゆるキャラ好きが繋がりました!

素敵な出会いと地道な日々を大切に、これからも楽しく朗らかに続けていくつもりです。

※大田区公式ホームページ>大田区からのお知らせ一覧>大田区からのお知らせ(目的別)>保健・衛生>献血推進活動のご紹介(2023年12月25日掲載)



左…大根ちゃま、右…大根ちゃまの飼犬キャラちゃっぱくん

## ★参加した高校生他学生ご家族の感想

- 親子でお世話になりました。暑かったですが、飲み物をいただいたり、日陰に移動しながら立たせてもらったので、元気に帰宅することができました。お気遣いありがとうございます。
- ボランティア2時間というのが良かったと思います。長すぎず、短すぎず、ちょうど良い感じでした。献血って1時間も掛かると知ったのは今日1番の驚きでした!

## ★活動実績

- 2022年11月27日、大田六郷地域力推進センターにて、高校生3名ご家族12名参加。
- 2023年4月19日、大田六郷地域力推進センターにて、高校生5名参加。
- 2023年6月25日、蒲田駅西口にて、高校生7名ご家族2名参加、骨髄登録会併行。ドナー登録5名。
- 2023年10月8日、蒲田駅西口にて、高校生他学生4名ご家族1名参加、骨髄登録会併行。ドナー登録2名。
- 2023年11月18日、大田六郷地域力推進センターにて、高校生2名ご家族3名参加。
- 2023年11月19日、蒲田駅西口にて、高校生1名ご家族1名参加、骨髄登録会併行。ドナー登録6名。
- 2023年12月28日、蒲田駅西口にて、高校生6名参加、骨髄登録会併行。ドナー登録3名。
- 2024年1月28日、蒲田駅西口にて、高校生1名ご家族2名参加、大根ちゃま出演、骨髄登録会併行。ドナー登録3名。
- 2024年2月12日、大森駅東口にて、ご家族1名参加、大根ちゃま&ちゃっぱくん出演、骨髄登録会併行。ドナー登録4名。
- 2024年2月23日、蒲田駅西口にて、高校生1名参加、大根ちゃま出演、骨髄登録会併行。ドナー登録2名。
- 2024年3月31日、蒲田駅西口にて、高校生他学生2名参加、大根ちゃま&ちゃっぱくん出演、骨髄登録会併行。ドナー登録5名。

## <特別寄稿>大根ちゃまより

東京都大田区を中心に日本全国のご当地キャライベントに出演している大根ちゃまです。

献血と骨髄バンク登録の活動に関わらせていただいたきっかけは、大根ちゃまが、おたみんなのつどいプロジェクト笑顔大賞に受賞したことでオファーしていただきました。

実際活動に関わるにあたり献血と骨髄バンクについて調べましたが知らないことだらけで、きっとこの感覚が一般の人の認識だと思っています。年齢制限があるのは知ってはいましたが、風邪薬を飲んだら献血はできないなど知らない方は多いと思います。

そして路上に立ち実際活動してみて感じたことは、献血や骨髄バンク登録への関心の薄さです。大根ちゃまですが身近な人や、自分が必要とした経験がなくその重要さがわかりませんでした。

でもやはり献血や骨髄バンク登録によって救われる人がいる、その事実があることを大根ちゃま、ちゃっぱくんを通して1人でも伝えていけたらと思っています。実際大根ちゃまのファンの方が今まで一度も献血したことないのにしてくださいました。少ししか力になれないかもしれませんがその少しでも助かる命があることを信じて、今後も献血・骨髄バンク登録の活動をサポートさせていただきます。

# 東京マラソン2024 チャリティーランナーに感謝！

世界6大マラソン大会（東京・ボストン・ロンドン・ベルリン・シカゴ・ニューヨークシティ、すべてに参加し完走すると「シックススター」の称号が与えられる）の一つ、東京マラソンが、3月3日開催されました。大人気の大会なので37,500名の定員があっても一般応募では倍率10倍以上で例年当選が大変難しい状況です。そこでチャリティーランナーの枠を6,000名設け、44の寄付先団体のひとつに10万円以上の寄付をすれば優先的に走れる仕組みがあり、全国協議会が寄付先団体となっているためチャリティーランナーの受入れと走者の応援をおこないました。

今年の東京マラソンでは、寄付先団体の中から全国協議会を選んでくれたチャリティーランナーが67名、寄付は1,000万円を超える金額が集まりました。海外から寄付をして下さったランナーも39名おり、多くの方からたくさんの寄付をいただきました。

全国協議会ではチャリティーランナーに感謝を込め、個別ラウンジを設置しフィニッシュしたランナーに感謝状と記念グッズを手渡し、軽食と飲み物の用意と、ランナーへのマッサージを提供しました。それと同時に部屋には「あやちゃん」「マモ」「ドナーと患者のお手紙」など全国協議会が各地で展開しているパネルに英訳のコメントも付け、骨髓バンクを知ってもらうためにパネル展を開催しました。英訳のコメントを見て涙ぐむ海外ランナーもいらっしゃいました。個別ラウンジには、26名のランナーとそこご家族32名が立ち寄り、完走後のひと時を過ごしていただきました。

フィニッシュの場所とは別に、マラソンコースの沿道でも、埼玉の会・千葉の会・東京の会のボランティアの皆さんが、のぼりを持ってチャリティーランナーを応援しました。東京の会から参加してくれたボランティアの3人から、当日の様子を報告していただきます。

## 個別ラウンジにて

今年の東京マラソンでは、寄付を下されたランナーの方々にはラウンジで6つのホスピタリティができるよう準備していました。①「千羽鶴チャレンジ」、②「ハンドブック寄贈」、③「マッサージ・体のメンテナンス相談」、④「感謝状贈呈」、⑤軽食提供、⑥パネル展案内です。ラウンジの場所は昨年東京国際フォーラムから丸の内国際ビル2階に用意されました。昨年の部屋に比べてやや手狭観がありましたが、幸い松下さんはじめボランティアの皆でうまく机や椅子をアレンジしたおかげで座れなくなるようなことはありませんでした。

今回もたくさんの素晴らしい方々にお会いできました。ラウンジに最初に現れた方は日系アメリカ人の高齢のご婦人で早くも11時過ぎに入ってこられました。ご自分のごく短い距離だけ走って、完走してはるばるのお嬢様をこのラウンジで待つと言うことでした。12時過ぎると次々に完走した方々が戻って来られました。今年大好評だったのはマッサージで、ほとんどの方が希望されました。幸いなことに6名もの理学療法士の方々が参加してくださり、さらに通訳として橋本陽子さん、干川三重さんのお二人も参加して下さったおかげで最繁期にもスムーズに進められたと思います。



ランナーの中には自らが白血病を克服し、マラソンに挑戦を始めたのはほんの数年前という大変ハンサム

なイタリアの青年もおられました。今回の東京マラソンでは2時間40分台の記録



で完走したそうです。また、パパが走り終えてくるのを待っていた小学生のお子さんは一回の教えで見事に千羽鶴を織り上げ、さらには自らのアイデアでお茶碗を織り上げたので、教えていた私の妻がその天才ぶりにびっくりする一コマもありました。

どのランナーの方もやさしく患者さんへのメッセージをお願いすると快くそしてじっと考えてそれを書いて下さいました。また展示された患者さんのメッセージを見て涙ぐむ方も多く、その姿には感動しました。今後の反省として思ったのは、ゴールしたランナーの方がこのラウンジにたどり着くのにかなり難渋していたことです。そのうちお一人はどうしてもたどりつけずに待っていた高齢のお母様に会えずに結局ホテルで落ち合うことになったそうです。また別のお一人は大勢の家族がこちらで待っているのにたどり着けず、心配された御両親の顔つきが次第に険しくなっていました。見かねて私が出た探した結果何とか国際ビルの地下におられたところを見つけてお連れしました。その時のパパの顔がそれまでとはまるで違って笑顔が広がり、私もほっといたしました。

来年は周辺の地図をしっかりと踏まえて携帯電話で誘導してあげるようにする必要がありますと思いました。  
(及川耕造)

## 個別ラウンジへの誘導ボランティア

ドナー登録説明員の園山千夏さんにお誘い頂き3月3日に行われた東京マラソンのボランティアに参加しました。当日、フィニッシュされた優先ランナー(寄付者)さんを個別ラウンジに誘導する係を担当しました。

誘導の際、案内する方がほぼ外国の方だったのがとても印象的でカタコトの英語とジェスチャーで何とか誘導出来ました。また、ランナーの皆さんがフルマラソンを走り切ったとは思えないくらい明るく驚かされました。

私は個別ラウンジでの活動は無かったのですが、ラウンジではマッサージや軽食が用意されランナーにとって疲れを癒せるとても良い場所だと感じました。

今回、寄付先団体に選定されている全国骨髄バンク推進連絡協議会さんに、合わせて1,000万円超の寄付が集まったと聞きました。ランナーさんと団体さんにとってとても良い効果があると感じたので、今後も続いて欲しいです。そして機会があればまたボランティアとして参加させて頂きたいと思いました。

(古賀久美)

## アプリを見ながら楽しく沿道応援

3月3日、集合時間の10時に全国協議会事務所に行くと、東京の会の参加メンバーがもう集まっていました。今日は東京マラソンの沿道応援です。メンバー6名で、のぼりを短めに持って徒歩10分ほどの応援地点に向かいます。

招待選手などトップランナーはとっくに通り過ぎた時間でしたが、日本橋から浅草方面に向かうコースは車道の端から端まで色とりどりの一般ランナーたちでいっぱいでした。骨髄バンクを支援して全国協議会に寄付してくれた67名のチャリティーランナーは、その7割が外国の方ということで応援に気付けてもらえるか心配でしたが、場所を確保してのぼりを高く伸ばしました。

応援ナビというアプリに選手名やゼッケンナンバーを入れると、今、どこを走っているのか分かります。これを見ながらランナーを待つのは結構楽しく、「もうすぐ111番の〇〇さん通りませす」のように情報を共有しながら、この大群の中を走っているであろう「〇〇さん」に向かって名前を呼びながら応援しました。

何名かのランナーがのぼりを見て近くに来てくれましたが、ほとんどの人はこちらから見つけることはできず、いつ通り過ぎたのかも分かりません。でも、何千人という参加者がゴールを目指して途切れることなく目の前を通り過ぎて行くのは圧巻で、全員を応援する気持ちを持ちつつチャリティーランナーに届くことを願って「骨髄バンクを応援してくれてありがとう!」「Bone marrow bank!」「ガンバレー!」と声援を送り続けました。

後日、全国協議会のコメントで、ラウンジに立ち寄って下さったランナーから「沿道応援が力になった」という声が聞かれたというのを読んで、応援の時の楽しい気持ちが蘇って更に倍増しました。

ランナーの皆様、全国協議会の皆様、当日携わった全ての皆様、お疲れ様でした! (福永達子)

## 2024年度の有楽町献血ルームでの登録会活動

東京の会では平日に出勤できる説明員が少ないため、登録会の活動は月1回日曜日に有楽町献血ルームで行っている登録会がメインになっています。

昨年度2023年度は9回実施して、合計で67名の登録がありました。登録者数がなかなか伸びなくなっています。コロナの流行が始まってから、献血来場者と説明員の接触を減らして感染リスクを押さえるために、説明員が来場者一人一人に「骨髄バンクの説明を聞きませんか?」と声をかけるのではなく、献血ルームの職員が受付時に声をかけ、説明員は説明コーナーで待つ方式になりました。ルーム職員は来場者に献血ヘスムーズに進んでもらうことに注力しているため、予約の人や成分献血の人には声かけはせず、また有楽町ルームは来場者が日曜日は220~250名と大変多いので受付が忙しく、なかなか骨髄バンクの声かけにまで手が回らないこともある様子です。コロナ禍を経て、予約してから献血に行くのが標準スタイルになった現在では、このやり方ではドナー登録の説明が数人とどまってしまう。

そこでこの1年、献血ルームと問題点を話し合い、今年度からは登録年齢対象の献血来場者にはすべて説明員が直

接声がけするようにしました。説明を聞きたいと言った人には原則献血前に説明を行う、どうしても献血ベッドの空き状況や予約の時間で直ぐに献血へ進んでもらわなくてはならない人には、ルーム職員が、献血が終わってから説明を聞くように案内する、というやり方に変えることになりました。

東京の会では新しいマニュアルを作成し、3月と4月の定例会で説明員に配布して、注意事項なども細かく確認し合いながら実施に向けての準備をしています。

今年度の有楽町献血ルームの登録会の日程は、5/12、6/9、7/28、8/25、9/8、10/27、12/8、1/26、2/16の9回を予定しています。いずれも日曜日で、開催時間は12:00~17:00です。説明員4人体制で、5~8月の参加者はすでに募集を済ませています。

「ドナー登録の説明を聞きませんか?」と最初に声をかけるところが、その日の登録会の成果を決めると言っても過言ではありません。東京の会のメンバーみんなで力を合わせて、充実した登録会活動になるよう、頑張っていきたいと思います。

(松下倫子)

# 全国協議会 関東甲信越ブロックセミナー開催

3月24日、埼玉会館にて関東、甲信越地区ブロックセミナーが開催されました。他の都道府県のボランティアさんの活動を知りたいと思い、今回、初参加させて頂きました。

各県のボランティアの団体の方々それぞれで発行している会報や、広報活動で配布している花の種や付箋などの紹介がありました。どの県も広報活動に試行錯誤をしている印象です。また、情報提供もありました。

東京都で骨髄バンク説明員として活動するためには、東京都開催の講座を受講し、その後実地研修をした後に説明員として活動することが可能になります。その実地研修の案内を東京都ではしていないようで、講座を受講したけれど宙ぶらりんな方がいらっしゃる、ということをお話を伺って頂きました。

更には今後、県の垣根を越えて登録会での説明員活動を可能にしようというお話もありました。東京の会では現在、平日に説明員として活動できる人員が圧倒的に少ない現状です。その平日を神奈川県や千葉県な



ど、東京近郊の県にカバーして頂く、という案です。

情報交換

の後、埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科、大西秀樹教授による記念講演「血液疾患患者さんが抱える心の問題とその対応」を拝聴致しました。精神腫瘍科は馴染みのない診療科ですが、がん患者様、そのご家族様の心のケアをする診療科です。がん患者様の心のケアは非常に重要であり、がんと診断された患者は身体的な治療だけでなく、心理的なサポートも必要となる、という事をスライドを交えてご講演頂きました。

非常に有意義な時間を過ごすことができました。参加させて頂き、感謝申し上げます。今後の活動に繋げて参ります。  
(桑田久美子)

## 7月会報発送

### 「おりおり」のお知らせ

日時：7月7日（日）午後2時より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※9月「おりおり」予定9月1日（日）午後2時より

## 東京の会

### 「5月、6月定例会」 のお知らせ

5月18日（土）、6月15日（土）午後5時30分より

定例会は、現地会議室集合以外に、オンライン（Zoom）での参加も可能です。

会場：こくみん共済coop東京会館

（旧：全労済東京会館）3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※7月定例会予定・7月20日（土）午後5時30分より

### 日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー （令和5年3月末日現在）

	ドナー（全国）	ドナー（東京）	患者（全国）
登録者累計	554,123	70,854	68,586
2-3月登録分	5,198	530	381
2-3月抹消数	4,525	579	—
実質登録増	673	▲49	—

### 患者とドナー登録・適合状況（3月末日現在）

ドナー登録受付者数（累計）	959,087人
ドナー登録抹消者数（累計）	404,964人
HLA適合報告ドナー数（累計）	382,354人
実質登録患者実数（現在）	1,652人（国内1,156人）
HLA適合患者数（累計）	54,571人（患者累計数の79.6%）
非血縁移植実施数	28,475例（2-3月実施185例）

# 編集者

## 雑記



▼3月21日～23日、第46回日本造血免疫細胞療学会総会が、「〈生きたい〉に応える責任 ～今、再び問う～」をテーマとして東京有楽町の東京国際フォーラムで開催されました。全国から血液内科医や看護師、医学部の研究生など約3,700名が学会に参加しました。全国協議会でも22日～23日に企業展示会場にブースを出し、ハンドブック「白血病と言われたら」の宣伝配布、各支援基金の広報、日頃の活動報告などを来場の皆さんへお伝えしました。

▼学会プログラムの中で、全国協議会からも一般口演で山崎裕一理事が2単元、浅野祐子理事がポスター発表をおこないました。一般口演その1は、「骨髄バンク移植患者の経済的負担軽減のための提言」です。移植を必要とする患者は、移植前の長い治療期間で就労や家庭環境が激変します。退職・転職・転居など経済的負担増となり、医療費の自己負担分と合わせて多額の費用が必要となります。また骨髄バンクで移植する場合、ドナー確認検査料、調整料・ドナー差額ベット代・骨髄液の運搬費・ドナー傷害保険掛金など、骨髄バンクの患者負担金を支払わなければなりません。世界の現状を見ると、患者負担金は韓国・中国以外はなく、世界的に骨髄バンクに患者負担金があるのは少数派です。経済的負担が大きいので、さい帯血移植に進む患者さんもいらっしゃいます。骨髄バンク設立30年を超え、骨髄バンク移植は先進医療から標準医療となっています。患者負担金を軽減・解消するために、検査料・調整料・傷害保険料などは骨髄バンクが負担する、また診療報酬点数の引き上げなど、国への要求をおこなっていくことが必要だと提言しました。

▼もう一つの一一般口演は「骨髄バンクコーディネートの現状と課題」と題してコーディネーター期間の短縮を提言しました。現在日本の骨髄バンクコーディネーター期間は約120日となっています。しかしドイツで60日、

アメリカ・イギリスでも80日～90日と世界的に見ても日本は時間が掛かっています。そのため現状では患者の病状を鑑みて、さい帯血移植や血縁ハプロ移植へ流れていっています。コーディネーター期間を短縮するために、国に対してはコーディネーターシステム刷新のための費用負担を要望し、webでのコーディネーター(説明や確認検査、家族同意など)の仕組みの構築、移植コーディネーターの養成と職業としての人件費の確保、コーディネーターや造血幹細胞移植術の診療報酬点数の増額などを要求していくことが重要であると提言しました。

▼ポスター発表では、「30年以上変わらない骨髄バンクドナー登録活動の実態」と題し、全国協議会加盟・非加盟団体へのアンケート調査の結果を報告しました。全国の29団体がアンケートに協力してくれました。ドナー登録開催場所は、①献血ルーム19団体、810回、平均登録3.89人 ②行政機関22団体、670回、平均登録3.23人 ③商業施設18団体、556回、平均登録4.17人

④大学・専門学校19団体、319人、平均登録8.63人 ⑤職域20団体、259回、平均登録3.79人 ⑥街頭(駅頭等)8団体、256回、平均登録5.00人 ⑦イベント15団体、65回、平均登録5.40人 という結果でした。ドナー登録会での説明員の配置や連絡調整はほとんどがボランティア団体が担っており、日赤・骨髄バンクとの調整や支援団体(ライオンズ・企業・ロータリー・JCなど)との連携も担当し、その業務が過多となっている現状が報告されました。30年以上の各地の元患者・患者家族・ドナー経験者など骨髄バンクの発展を願うボランティアの地道な努力でドナー登録は増えてきましたが、ボランティアの高齢化や後継者不足で団体の存続も厳しい現実があります。行政・日本赤十字社・日本骨髄バンク・ボランティアのより一層の連携協力が不可欠であることを報告しました。

▼毎年開催される日本造血免疫細胞療学会総会は、私たちが日頃お世話になっている血液内科医や看護師が集まる場所です。来年は3月に大阪で開催されます。全国協議会としても関係者に報告と提言する場としてテーマを決めて取り組んでいくことが重要であると感じました。(A)

### 心のこもったご寄付ありがとうございました。(2024.2.16～4.15)

齋藤雅美さん 2,000円/匿名希望 5,000円/高橋いずみさん 2,000円/小松崎辰哉さん 12,000円  
阿部公子さん 10,000円/小山内直樹さん 1,100円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

## ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **骨髄バンクを支援する東京の会**